

採血に伴う合併症について

済生会千里病院 中央検査部 採血室

採血は基本的には安全な手技ですが、ごく稀に以下のような合併症がありますので、お含みおき下さい。

止血困難・内出血

穿刺後の不十分な止血操作などが主な原因です。十分な圧迫止血を5分間していただきますようお願い致します。



アレルギー

採血時の消毒薬やテープ(絆創膏)などでかゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現することがあります。

神経損傷

採血後も手指へ拡がる痛み、しびれなどが持続します。約1万～10万回に1回の頻度で起こるとされています。多くは1週間以内に、大部分は3カ月以内に改善します。



血管迷走神経反射

神経が興奮し、急激に血圧が低下するため、めまい・気分不快感・意識消失などをひきおこします。心理的に緊張や不安が強いと起こりやすいとされ、採血前に起こることもあります。

◎ 採血に不安をお持ちの方はお申し出ください。

これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。(なお、その際の医療は通常の保険診療となります。)

